

糸魚川市 須沢角地遺跡 V 現地説明会資料

(公財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
小柳建設株式会社

1 はじめに

須沢角地遺跡は、糸魚川市須沢字^{おおつぼ}大坪地内に所在します。遺跡は姫川左岸の^{せんじょうち}扇状地の^{にしはじ}西端に立地し、標高 8 m を測ります。姫川まで東に 700m、旧北陸道まで北に 450m、日本海まで北に 600m ほどです。

発掘調査は、北陸新幹線の建設に伴う市道付替え工事に先立ち、4 月から行っています。調査面積は 268 m² (67 m² × 4 面) で、現在上から 4 番目の面の調査を行っており、5 月末で調査が終了する予定です。



調査区近景 (東から)

2 周辺の遺跡

須沢角地遺跡は、^{おうみ}青海地区で現在見つかった古代の最大の集落で、当地域の有力な集落の一つです。周辺には西 800m に^{にしがくち}西角地古窯跡があり、大量の須恵器が見つっています。8 世紀末葉～9 世紀



須沢角地遺跡の周辺の地形と遺跡

初頭^{かまあと}の窯跡と考えられ、当遺跡でもたくさん出土しています。同じく西 600m^{おがくち}の大角地遺跡は縄文・古墳・古代の遺跡です。古代では、大型掘立柱建物が検出され、緑釉陶器^{りよくゆう}や荷札状木簡^{もつかん}などが出土しています。西角地窯跡^{かんが}や官衙（役所）に隣接した遺跡とされています。このほか北の本田浜遺跡では、昭和30年ころ、土砂採取に伴い多数の人骨が出土しています。副葬品^{ふくそうひん}や遺物が出土しておらず、詳細な年代は不明とされています。このほか南東には平安時代の後久^{ごきゆう}遺跡、縄文時代・古代の須沢水神遺跡^{みずかみ}があります。

3 過去の調査概要

須沢角地遺跡は、これまでたびたび発掘調査が行われ、今回で7回目の発掘調査となります。

昭和 62 (1987) 年^{と ちくかくせいり} 土地区画整理事業に伴い旧青海町教育委員会が、3,951 m²を発掘調査しました。調査の結果、^{たてあな} 竪穴建物が 31 棟



風字硯（長さ 22.4 cm）

見つかり、出土土器からおおむね7世紀末葉から9世紀の集落とされました。また、西角地窯跡の須恵器が見つかり、鉄製鋤先^{すきさき}や風字硯^{ふうじげん}（風の字に似ているすずり）なども出土し、当地域の有力な集落とされました。

平成 19 (2007) 年^{てんぽ} 店舗建設に伴い、糸魚川市教育委員会が 300 m²を発掘調査を実施しました。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴建物 4 棟、鎌倉時代の掘立柱建物^{ほったてばしら} 2 棟が検出され、中世の集落もわかりました。



東隣の橋脚下の遺構（西から）

平成 16・19～21 年 北陸新幹線建設に伴い、新潟県教育委員会が橋脚部分^{きょうきゃくぶぶん} 12 か所、面積 2,453 m²を調査しました。調査の結果、奈良・平安時代の竪穴建物 6 棟、掘立柱建物 8 棟が見つかりました。

なお、今回の調査区の東隣の橋脚では、8世紀後葉から9世紀前半の竪穴建物、掘立柱建物（写真）が見つかり、同じく西隣の橋脚では、畑作溝や土坑（写真）が見つかりています。



西隣の橋脚の遺構（東から）

4 調査結果

1) 基本土層

過去の発掘調査の結果では、江戸時代以前の生活面が4枚確認されていました。

0層 北陸新幹線建設による盛土で約2m堆積しています。

I層 褐灰色粘質シルト 近現代の水田耕作土です。

II層 明黄褐色砂質シルト 近世以降の遺物が出土します。

- Ⅲ層 褐灰色砂質シルト 中世後期の生活面と推定されています。
- Ⅳ層 褐灰色粘質シルト 中世前期の生活面と推定されています。
- Ⅴ層 黒褐色粘質シルト 奈良・平安時代の生活面です。
- Ⅵ層 にぶい黄褐色シルト 奈良・平安時代の生活面と推定されています。
- Ⅶ層 褐色シルト 地山で生活の痕跡が見られません。
- Ⅷ層 れき層。



基本土層（南から）

2) 遺構と遺物

第1面（Ⅲ層）、第2面（Ⅳ層）では、古代から中世の遺物が見つかったものの、遺構は検出されませんでした。中世では珠洲焼が少量出土しました。

第3面（Ⅴ層）でピット（穴）11基を検出しました。覆土は、Ⅴ層に近似した黒褐色土で、土師器や須恵器の破片を伴いました。覆土や土器から奈良・平安時代の遺構と判断されます。ピット（穴）は、



須恵器の坏 出土状況（東から）



ピットの土層断面（南東から）

並びや形状に規則性がなく、どのような性格か不明です。奈良・平安時代の遺物が含まれているV層からは、多くの土師器や須恵器が見つかりました。出土した須恵器の多くは、形や胎土などの特徴から西角地窯跡の製品と考えられます。このほか砥石や鉄くぎ、ふいごの羽口（鍛冶炉の送風管）などが出土しています。

第4面（VI層）は、調査中ですが、土師器・須恵器がVI層上部から出土しています。また洪水に伴う流路が見つっています。

5 まとめ

調査面積が狭いながら、奈良・平安時代の遺物が多く出土し、遺構もピットがやや多く見つかりました。中世はわずかではありますが、遺物が見つかりました。これまでの調査結果を裏付ける資料が得られました。



第3面（V層）の遺構検出状況（南から）

【メモ】